

持続可能な地域コミュニティの構築に向けて

～新たな担い手づくりの検討～



新潟県柏崎市 金子 智廣

はじめに

昭和46年、柏崎市の中山間地域である中鯖石地区が旧自治省のモデル・コミュニティ地区に指定され、昭和47年に地域コミュニティ振興協議会（以下「振興協議会」という）が発足した。これをきっかけに、柏崎市における振興協議会を核とした地域主導の地域づくりが始まった。

時代の流れとともに振興協議会はコミュニティセンターを地域の活動拠点として、その時々地域の実情に応じた地域課題や住民のニーズに対し変化と発展を重ねながら、地域主導によるコミュニティ活動を進めてきた。

しかし、少子高齢化、人口減少、若い世代（20代～40代）の流出など、地域コミュニティを形成する人口構造が急激に変化してきている。特に中山間地域においては、地域コミュニティ活動（以下「地域活動」という）を担う人材不足や高齢化、若い世代の不参加など、地域コミュニティを運営する組織の弱体化が危ぶまれている。このことから地域活動の維持や継続が困難になることが懸念されている。このため中山間地域においては、振興協議会の活動・運営に参加する新たな担い手の確保が重要な課題であると考えられる。

そこで、私が住む鯖石小学校区にある地域コミュニティをモデルとして、中山間地域におけるコミュニティの現状と課題、今後の地域活動の参加や方向性について考察することとした。

1. 鯖石小学校区の現状

(1) 鯖石小学校区の概要

柏崎市の南東部に位置する鯖石小学校区は、山間部に囲まれた準農山村地域である。

現在の鯖石小学校区には中鯖石コミュニティと南鯖石コミュニティの2つがある。これは平成23年に鯖石小学校と南鯖石小学校が統合したことによるものである。

中鯖石コミュニティは昭和47年に市内初の振興協議会を設立、南鯖石コミュニティは昭和50年に市内2番目の振興協議会を設立しており、柏崎市のコミュニティ施策の先駆けともなる地域である。両地域とも振興協議会を中心に、これを構成する町内会と連携し、地域住民が一体となって地域に根ざした活動を推進してきた。

町内会では主に情報伝達、環境整備、自主防災組織の整備など、近隣住民同士の関係づくりや身近な生活課題の解決に向けた活動を、そして振興協議会では地域コミュ

図1 鯖石小学校区の位置図



ニティ内の親交活動、環境整備活動、子ども見守りなどの防犯活動、高齢者支援、生涯学習、地域文化の伝承活動など、広範囲な活動に取り組んできた。

両地域とも地域のつながりは強く、生活に関わる地域課題の多くを住民が主体となって振興協議会を中心に取り組んできている。地域住民にとっても振興協議会は地域での生活において重要な役割を担っている。また、ライフスタイルの多様化により、コミュニティセンターへのニーズも生涯学習的機能から、「子育て支援」などの地域福祉活動や「災害時の支援など地域住民の生活支援の場」「地域住民をつなぐ交流の場」「地域住民の連携協力による地域づくりの場」など、住民と地域をつなぐ役割・機能の充実が望まれている（図2）。コミュニティセンターに対する期待は高い。

このようにコミュニティセンターは地域活動の基盤であり、地域の拠り所として非常に重要な役割を担っている。

（2）鯖石小学校区の人口

鯖石小学校区の人口は、昭和60年では5,082人であったが、平成26年では2,914人と40%近くも減少している。また、少子高齢化の進行が顕著であり、特に高齢化率は18.9%から43.7%と急激に増加し、地域住民の約半分が高齢者という状況にある（図3）。国立社会保障・人口問題研究所による柏崎市の将来人口推計においても、少子高齢化及び人口減少は続くと推測されており、鯖石小学校区の少子高齢化及び過疎化は更に進行するものと考えられる。

このような状況において、振興協議会は地域づくりや災害時の拠り所として、地域課題解決に向けた活動など一定の機能を維持している。

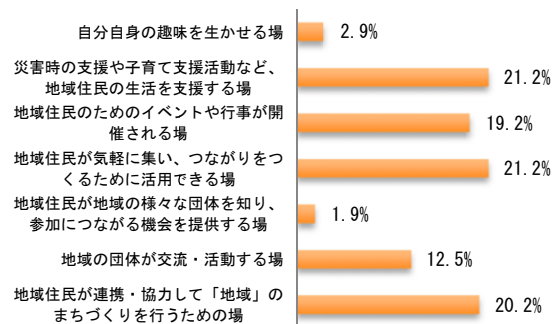
（3）各地域コミュニティの取組

①中鯖石地区コミュニティ振興協議会

旧自治省のモデル・コミュニティ地区の指定を受け、昭和47年に市内初の振興協議会が発足した。これは10地区の町内会で構成されており、地域のまとまり、住民のつながりを重視した地域づくりを推進してきたが、活動の多くが協議会主導、行事活動中心であったため、「活動の本質」が地域住民に理解されず、活動への参加も一部住民の固定化傾向にあった。

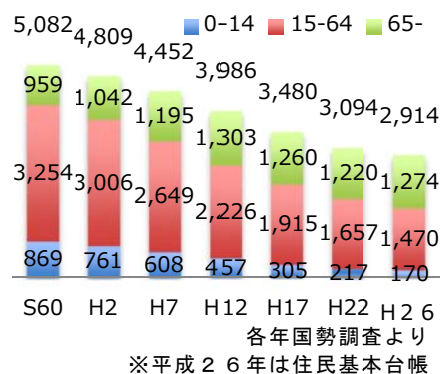
また、多様化する地域の生活課題や住民のニーズへの対応策、地域の将来像の模索

図2 コミセンに期待する役割・機能



※H26 柏崎市のコミュニティに関する市民アンケート（鯖石地区抜粋）

図3 鯖石小学校区の人口推移



など、コミュニティの本質的活動である「住民による地域づくり事業への取組」に至っていないかった。

このことから、振興協議会創設30周年を転機として、平成16年度に組織及びコミュニティ活動の見直しを図るとともに、「21さばいし元気塾」を立ち上げ、住民意識調査やワークショップを2年間積み重ね、「新さばいしコミュニティプラン」が策定された。「自然と共生し、安心して暮らせる元気なふるさと」を目指す地域像とし、①自然や文化にふれあえるさとづくり②連帯と交流のある元気なさとづくり③地域資源を活かした活力あるふるさとづくり④ともにすこやか安心して暮らせるさとづくりを基本項目とし、5つの専門部会により地域コミュニティの活性化を推進している。

②南鯖石地区コミュニティ振興協議会

当時の区長会長及び南鯖石公民館長の積極的な働きかけにより、昭和50年に市内2番目の振興協議会として設立された。9地区の町内会で構成され、地域住民の主体的な活動を目的に、地域活動の中心的な役割を担ってきた。しかし、急速な過疎化・高齢化が進み、高齢者の人口比率が約5割に達するなど、典型的な過疎・少子高齢化が進んだ地区となっている。

平成16年度に策定した「新コミュニティ計画」においては、こうした現状を率直に受け止め、高齢者が安心して住める地域、若い世代が定着したくなるような地域づくりが最大のテーマとされた。

この計画では「活力ある地域・心豊かな郷づくり」を目標に①心と体の健康づくり②自然と生活環境の整備③高齢者支援活動④青少年の健全育成⑤地域文化の伝承と創造⑥特色ある地場産業の振興⑦生涯学習の7つを基本方針として掲げ、地域づくりを推進している。

2. 鯖石小学校区の課題

(1) 聞き取り調査

両地域とも、平成16年度に策定したコミュニティ計画により地域づくりを進めてきたが、少子高齢化や人口減少、小学校統廃合、若い世代のライフスタイルの変化により、10年前と比べ地域コミュニティを取り巻く環境が変化してきている。そこで、地域活動の活動拠点であるコミュニティセンターの職員に、地域活動を進めていく上での課題についてヒアリングを行った。

①中鯖石コミュニティ振興協議会（センター長 12月下旬）

振興協議会の運営や活動については、振興協議会の役員やコミュニティ推進員、関係団体関わっているが、中心となるメンバーは50～60代が多い。若い世代は生活スタイルの多様化により「地縁」から「目的」を重視した仲間づくり・活動へと意識が変わり、子ども関係以外の活動への参加は少ない状況にある。地域のニーズが多様化する中、担い手不足により地域の課題解決に向けた新たな事業に取り組むことが難しく、既存事業の維持・存続に留まっている。このため、新たな担い手の参加を促すきっかけとなる活動までには至っておらず、どのように参画してもらうかが現在の課題となっている。

②南鯖石コミュニティ振興協議会（主事 8月下旬）

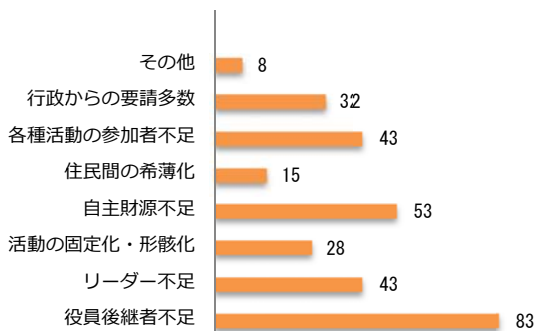
少子化に歯止めが利かず、児童の減少により南鯖石地区にあった小学校が平成23年度をもって廃校となった。児童の活動が統合先である中鯖石地区の小学校に移り、「子どもがいる風景」が地域から消え、小学校と地域が共有していた行事や活動がなくなったことで、「地域が衰退する」という悲観的な見方が地域に広がっている。

また、中鯖石コミュニティ同様、若い世代の活動への参加も減少するなど、地域活動の担い手不足や若手の不参加、役員の高齢化が進み、地域コミュニティの衰退が危ぶまれている。

聞き取り調査の結果から、両地域とも担い手不足が大きな課題であることが分かった。現在の振興協議会の役員構成は発足した当時からほぼ変わらず、各地域または各団体から選出された男性が中心で、人の交代はあるものの、年代は50～60代で、若い世代の参画は少ない。また、若い世代が「地縁」から「目的」を重視した仲間づくり、活動に意識が変わり、地域活動への関心が低下している。このため、若い世代の活動の不参加などにより地域活動に参加するメンバーが固定化するなど、新しい人材の育成ができず、新たな担い手が生まれにくい状況にある。

このほか、平成18年に実施した町内会アンケート調査においても、「役員後継者不足」や「リーダー不足」「各種活動の参加者不足」が町内会活動を行う上での問題点として挙げられている（図4）。地域活動については振興協議会や町内会が中心となって活動を行っており、地域特有の課題解決に対し、現時点では地域活動が維持されている。だが、今後、担い手不足により地域活動が困難となった場合、受け皿となる団体が他にないため、地域コミュニティそのものが機能しなくなることが危惧される。このためコミュニティ組織の再編や人材育成と確保のための取組が必要と考えられる。

図4 町内会活動を行う上での問題点



平成18年度 町内会アンケート（農村・中山間地域抜粋）より

（2）若い世代の地域コミュニティへの意識と課題

両地域とも、担い手不足や人口減少、少子高齢化が進む現状において、持続可能な地域コミュニティづくりを進めていくには、若い世代の地元への定着、地域活動への参加・参画が重要であるとの認識が調査から得られた。そこで地域の将来を担うであろう若い世代の方々が、地域活動にどの程度関わっているか、また、地域活動をどのように感じているかについて、鯖石小学校区内に住む若い世代を中心にアンケート調査を実施した。具体的には20代～50代の80人を対象に調査を実施し、60通（回答率75%）の回答を得た。また、一部回答者に対しアンケート内容の詳細について、追加で聞き取り調査を行った。（詳細は別添資料）

①地域への愛着・つながりの現状

住民の81%が自分の住む地域に「愛着がある」「どちらかといえばある」としており(図5)、70%は今の地域に住むようになってから現在において住民同士のつながりが今も変わらずあると感じていることが分かった(図6)。

回答者の年代は30~40代が90%以上を占め、在住年数でも10年以上が73.3%と圧倒的に多い。この質問とのクロス集計結果においては、年代別に大きな差異はないが、在住年数が長いほど地域への愛着度が高く、地域内のつながりへの意識が高い傾向にあることが示された。

しかし、地域への愛着があると答えなかった者が約20%、さらに次の問いで、住民同士のつながりが弱くなっていると感じると答えた者が25%という状況にある。地域への愛着、地域活動への参加者の減少や地域活動を担うリーダーの不在、親近感の薄れ等、つながりが弱くなっていると感じている課題(図7)に対し、既存の地域のつながりをきっかけとした住民参加を促し、つながりを広める活動や、達成感・充実感を得られるような取組を行っていく必要があると考える。

②地域活動の現状

地域活動や行事には80%以上が参加と回答しているが、「興味や関心があるものだけ参加」が約37%と高く、「積極的に参加」も含めた主体的な参加は全体の約60%となっている。また、約20%は、義務感や付き合いなど、周りの影響により仕方なく参加していると回答している。

また、仕方なく参加している者も含め、活動自体への参加がないとする回答が全体の約40%を占めていた(図8)。参加しない理由は「仕事や子育てで忙しくて時間がない」が約40%と多い(図9)。日中は仕事、夜や休日は家庭や子どもク

図5 自分の住んでいる地域に対する愛着

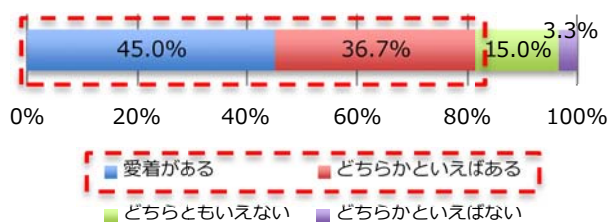


図6 地域における住民同士のつながり

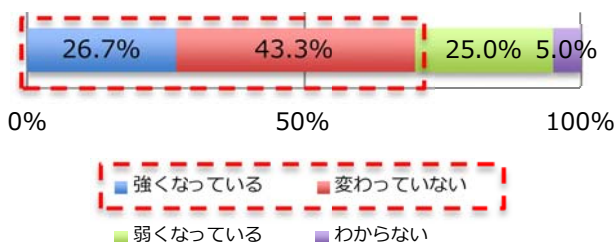


図7 つながりが弱くなっていると感じる理由

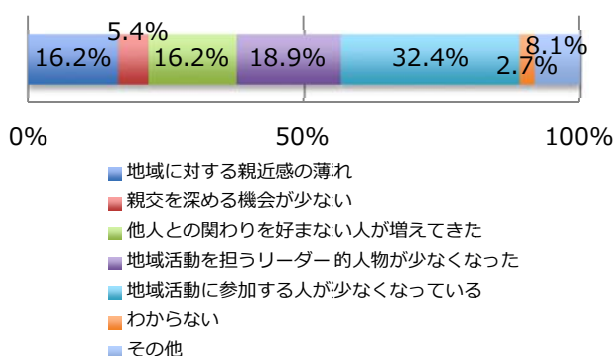
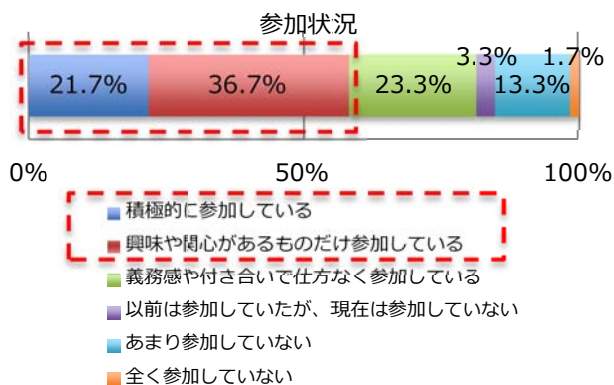


図8 地域コミュニティが行う活動や行事への参加状況

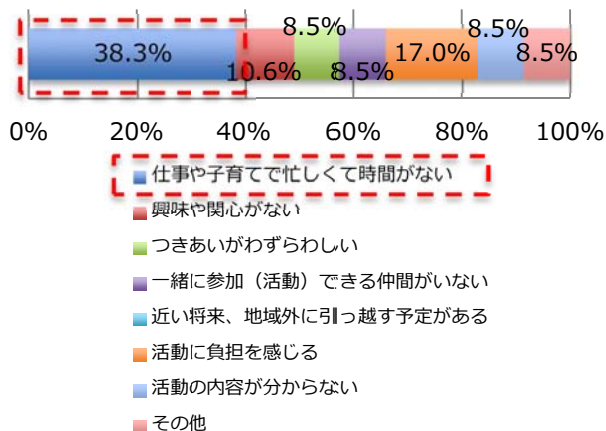


ラブ活動への参加等、時間や余裕がないため、地域に目を向けることができない状況にある。時間がないという理由以外では「活動に負担を感じる」が挙げられている。これは在住年数が長い人ほどその傾向が高い。

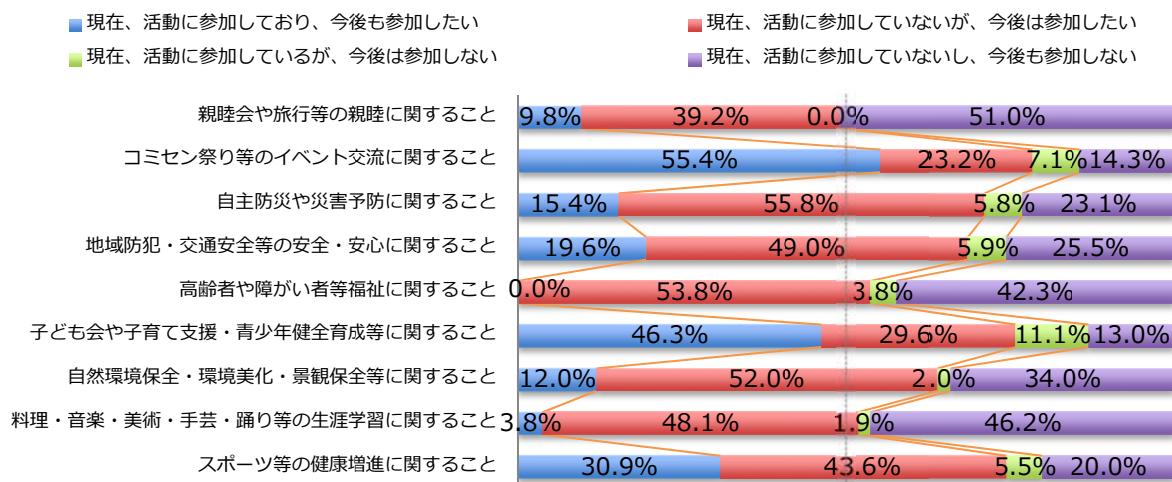
現在の地域コミュニティへの参加状況と今後の意向については、「子ども会」や「子育て支援」、「イベント交流等」、「スポーツ等健康増進」等への活動の参加が高くなっている。また現在参加していない場合でも今後参加したいという回答が多く、子育て世代ということもあり、子どもに関する事業への参加意欲、活動への関心がともに高くなっている（図10）。

しかし、生涯学習や高齢者・障がい者への福祉事業や生涯学習など、子どもと関係性の低い事業への参加は著しく低い状況にある。これは、若い世代にとって仕事や子育てなど家族への時間を優先することから、子どもに関係する活動以外への優先順位が低くなっているものと考えられる。

図9 活動に参加しない理由



問10 地域コミュニティ活動の参加状況及び参加の意向



ただ、現在参加していない状況ではあるが、生涯学習、親睦活動以外の事業については「今後は参加したい」という回答が「今後も参加しない」を上回っており、回答者の多くが、積極的ではないにしても、地域コミュニティ内で実施している活動に関心があることが窺える。振興協議会は地域づくりや地域活動等の中心であり、少しでも関心がある活動に対し、どのように参加につなげるかは重要な課題である。そのためのかきかけや仕組みづくりを検討し、地域コミュニティがあるという意義を感じてもらい、地域活動への参加が有意義なものとなるような活動を展開していく必要がある。

③地域活動への意識とニーズ

地域コミュニティの運営や活動の課題について質問したところ、回答者の約25%が「担い手不足や役員の高齢化」と回答している(図11)。地域コミュニティ内での担い手不足や高齢化は地域コミュニティの持続的な運営・活動を進めていく上での課題の一つと捉えられる。これは、同様に高い回答率であった「人口の減少・少子高齢化」、「参加者の減少・固定化」にもつながる回答である。人口減少と少子高齢化が同時進行する中で、賑わいが少しずつ失われ、地域コミュニティ機能の低下をもたらしている。このため新たな活動への取組ができず、既存の活動を維持しなければならないことから活動がマンネリ化し、住民の関心の低下につながっているのではないかと推測される。

地域活動に今後求めるものとして、約32%が「興味のある活動に参加したい」と回答している(図12)。前述の地域活動への参加意向も踏まえると、興味がある活動についてはとても前向きな姿勢であることが読み取れる。

また、「地域に貢献したい」という回答も多く、子育てや仕事で忙しい世代においても、自分が住む地域への愛着は高いことから、地域活動に少なからず関心を持っていることが窺える。

調査結果から、20～50代の方々が潜在的には、自分が興味のある活動への参加や地域貢献、仲間づくりなど、興味や関心のある活動であれば関わっても良いという意識を持っているようである。前述の地域活動の参加意向に関する調査結果も踏まえ、地域コミュニティの持続的な運営を進めていくため、若い世代が地域活動に関わっていきたいと思えるような魅力ある事業を検討し、展開していく必要がある。

若い世代は地域に対し愛着を持ち、つながりはあると感じている。子どもが関わる活動や関心や興味のある活動については参加する意欲はあるが、それ以外の活動については子育てや仕事で時間が取られ参加できない状況ある。ただ、決して地域に目を向けていないわけでもなく、少なからず自分の地域に対し関心や興味を持ち、何かしたいと思っているが、優先順位が低く行動が結びついてこないということが、アンケート調査を通じて見えてきた課題である。

図11 コミュニティの運営や活動の課題

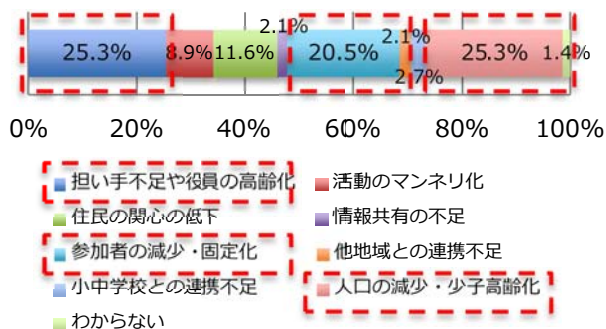
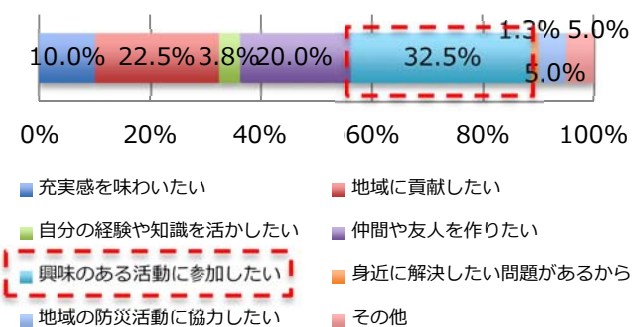


図12 地域コミュニティ活動に求めるもの



3. 調査結果を踏まえた提案

柏崎市では、これまで長年にわたり地域特有の課題解決に向け、振興協議会を中心に地域主導による地域づくりを進めてきた。このため、振興協議会は地域生活を送る上での基盤であるとともに、地域づくりの拠り所として地域に根付いてきた。これからも時代に応じた地域課題やニーズに応えることを期待される一方、時代の移り変わりとともに、地域コミュニティを取り巻く環境も変化し、特に中山間地域では、担い手不足により新たなニーズに応える活動になかなか取り組めない現状もある。

このことから、振興協議会の活動・運営に参加する新たな担い手の確保は喫緊の課題であり、そのためには新たな担い手として、若い世代が地域活動に自主的に参加できるよう積極的に働きかけていく必要がある。

まずは、そのきっかけづくりとして、地域の若い世代が無理なく参加できるような仕組みづくりを考え、この仕組みにより、少しでも若い世代が地域に顔を出してくれれば、そこから振興協議会への参画につなげるためのきっかけが生まれてくるのではないか。

そこで、以下では若い世代の参加を促すための仕組みづくりについて考える。

(1) 地域活動への参加を促すための場の創出

人口減少や少子高齢化により、振興協議会の機能低下は避けられない状況にある。また、なかなか新しい事業には取り組めず、しかし現在実施している事業も含め地域課題を解決するために取り組まなければならない事業はある。若い世代が子ども関係以外の活動についても興味や関心がある活動については参加しても良いという傾向が、今回実施したアンケート調査でも明らかになっている。まずは、若い世代も含め多くの住民が関心や興味を持つ地域課題や活動を見だし、地域課題としての必要性を知ってもらうよう働きかけを行うことが必要である。そこで地域活動の拠点施設であるコミュニティセンターには地域の様々な情報が集まってくることから、施設を活用した情報発信について考えてみた。

中鯖石地域、南鯖石地域ともに、コミュニティセンターは学校や保育園に隣接している。車社会の現在において、少し距離の離れた子どもたちは、通学はバスを利用しているが、放課後は部活やクラブ活動があり、車で迎えにくる世帯が多い。また保育園への通園は個人対応のため、ほぼ車での送迎を行っている。送迎に来る保護者等は時間になるまで車内で待機していることが多いため、コミュニティセンターの一室を待合所として解放することで、待つ間に立ち寄ることができ、保護者同士のコミュニケーションも図れる。また送迎する者の中には祖父母もおり、世代を超えた交流も可能である。コミュニティセンター内には職員が常駐していることから、住民側は地域の課題についての相談を、コミュニティセンター側は地域の課題や問題の把握ができ、互いに情報の共有が図れる。更にコミュニティセンターの Web サイトを Facebook に移行することができれば、立ち寄った方を登録することで多様なつながりの創出と情報共有が可能となる。これをきっかけに地域コミュニティとのつながりができ、地域組織の概要や活動の目的、地域の課題などに若い世代の関心が少しでも向き、活動に参画するためのきっかけづくりとなることを期待したい。

(2) 小・中学校と連携した地域活動の展開

振興協議会の「活動」「組織」を活性化するためには、地域コミュニティ内の住民全てが活動に参加し、組織に参画してくれる事が一番の方策ではある。しかし、現実的には全ての住民が地域活動に積極的に参加することはなく、そのような状況が生まれる事は難しい。

現在の振興協議会の役員の多くは 50～60 代前半であり、時間的に余裕のある方々である。役員の担い手不足や高齢化が課題となっている今、今後更に進む少子高齢社会において、定年を迎え時間に余裕のある方しかできないような体制では先が続かない。しかし、子育て中や仕事で忙しい若い世代に対し関心や興味が薄い、またはない行事に、参加や参画を強制することはできないのも現状である。

子ども育成や子育て支援に関する活動やイベント、行事に関する活動は若い世代だけでなく、多くの世代の方も参加しやすく、また共感も多く得られやすい活動でもある。他の地域活動に参加しない若い世代においても、子どもに関する活動には関心や興味があり参加する者も多い。また地元小学校においても、振興協議会が行うイベントへの参加はもとより、子どもの見守り活動や地域防犯活動、社会体育活動など、地域との協働による子どもたちの教育を進めている。

「子ども」に関する事業については、少子化が進む地域においては誰もが必要と考えている事業である。以上を踏まえると「子ども」に関する事業について振興協議会や小中学校、PTA、子ども会や地域の各種団体と共催で行なうことは有効な方法であると考えられる。これまでは振興協議会や町内会が地域活動の主体となっていたが、共催での実施は地域活動に若い世代の参加を促すきっかけとなり、振興協議会の取組を若い世代に周知できるとともに、連携して事業を進めることで交流も生まれ、更に「子ども関係」以外の関心の高い事業への参加のきっかけにつながっていくことが期待される。

また、鯖石小学校区内に建設予定の中学校施設では、学校施設の一部に地域交流スペースを設けている。これは地域住民による学校建設ワークショップにおいて「学校機能に地域防災や地域交流スペースの確保」を挙げ実現したものである。アンケート調査において若い世代の子ども関係の活動への関心が高いことから、地域交流スペースの地域解放により地域と中学校や保護者をつなげる場として活用し、地域活動への参加のきっかけづくりにつながることを期待したい。

4. おわりに

今回のレポート作成では、次の担い手である若い世代の地域活動への意識と参加の方法について探った。そこで分かったことは、若い世代が地域活動に関心がない訳ではなく、子ども関係の活動や自分に興味や関心のある活動には関わっても良いという意識があるということである。柏崎市に地域コミュニティづくりが誕生して40年。若い世代と言われている現在の20～40代は、物心つく前から地域活動に関わっていて、コミュニティセンターがあつて当たり前という感覚にある。実際、私自身も子どもの頃からコミュニティセンターで遊んだり、イベントに参加したりと、日頃から密接に関わりを持っていた。実は、この事は他の地域に比べても珍しいことであり、

私も含め若い世代の多くは潜在的にコミュニティセンターが地域のつながりの場であり、地域づくりの中心であると感じていると考えられる。

今年は縁あって、小学校の子ども会の会長となり、子ども会活動を中心に振興協議会に関わってきた。これまでも地域活動には関わってきたつもりであるが、子ども会の活動を通して更に地域に目を向けるようになり、初めて地域に深く関わるようになった。そこで感じたことは、少子高齢化が進み、地域や人とのつながりが希薄になりつつある中でも、振興協議会は地域活動の中心として変わらず存在し続けているということ、そして行政では担えない地域福祉サービスの提供や地域課題解決に向けた活動、地域づくりの推進の中心となっており、今後も地域住民から必要とされ続けていくであろうということである。そのためには、地域コミュニティの活性化は行政の支援も必要だが、まずは地域住民が地域に対し愛着を持ち、少しでも関心を向けることが重要である。

このたび、地元の南鯖石コミュニティ振興協議会に子ども会の活動や本レポート作成においての聞き取り調査を通じ、来年度の振興協議会への参加についてもお話を頂いている。

来年度は私が住んでいる南鯖石地域の「コミュニティ計画」見直しの年でもある。行政職員としてだけでなく、一地域住民として積極的に地域活動に参加しながら、本レポートでの調査結果や提案をこれからの地域づくりに活かせるよう、新たな担い手の一人としてできるものから取り組んでいきたい。

【参考文献・資料】

- ・ 柏崎市『柏崎市コミュニティ40周年記念誌』柏崎市（2012）
- ・ 柏崎市『柏崎市統計年鑑（平成25年度版）』柏崎市（2014）
- ・ 柏崎市『柏崎市地域コミュニティ計画策定報告書』柏崎市（2005）
- ・ 柏崎市『コミュニティに関する市民アンケート調査結果』柏崎市（2014）
- ・ 柏崎市『町内会アンケート調査集計結果』柏崎市（2006）

地域コミュニティアンケート集計結果

問1 あなたの性別を教えてください。(〇は1つ)

1.	男性	22	36.7%
2.	女性	38	63.3%
	合計	60	

問2 あなたの年代を教えてください。(〇は1つ)

1.	20代	0	0.0%
2.	30代	25	41.7%
3.	40代	31	51.7%
4.	50代	4	6.7%
5.	60代以上	0	0.0%
	合計	60	

問3 今の地域に住むようになってから何年経ちますか。(〇は1つ)

1.	1年未満	0	0.0%
2.	1年以上3年未満	3	5.0%
3.	3年以上5年未満	6	10.0%
4.	5年以上10年未満	7	11.7%
5.	10年以上	44	73.3%
	合計	60	

問4 自分の住んでいる地域に愛着はありますか(〇は1つ)

1.	愛着がある	27	45.0%
2.	どちらかといえばある	22	36.7%
3.	どちらともいえない	9	15.0%
4.	どちらかといえばない	2	3.3%
5.	まったくない	0	0.0%
	合計	60	

問5 住民同士のつながりは今の地域に住むようになった時と比べてどのように感じますか(〇は1つ)

1.	強くなっている	16	26.7%
2.	変わっていない	26	43.3%
3.	弱くなっている	15	25.0%
4.	わからない	3	5.0%
	合計	60	

問6 問5で「弱くなっている」と回答した方のみお答えください。地域のつながりが弱くなっていると感じる理由は何ですか。(〇は3つまで)

1.	地域に対する親近感の薄れ	6	16.2%
2.	親交を深める機会が少ない	2	5.4%
3.	他人との関わりを好まない人が増えてきた	6	16.2%
4.	地域活動を担うリーダー的人物が少なくなった	7	18.9%
5.	地域活動に参加する人が少なくなっている	12	32.4%
6.	わからない	1	2.7%
7.	その他	3	8.1%
	合計	37	

問7 あなたは地域コミュニティが行う行事や活動に参加していますか。(〇は1つ)

1.	積極的に参加している	13	21.7%
2.	興味や関心があるものだけ参加している	22	36.7%
3.	義務感や付き合いで仕方なく参加している	14	23.3%
4.	以前は参加していたが、現在は参加していない	2	3.3%
5.	あまり参加していない	8	13.3%
6.	全く参加していない	1	1.7%
	合計	60	

地域コミュニティアンケート集計結果

問8 問7で「1.積極的に参加している」「2.興味や関心があるものだけ参加している」と回答した方のみお答えください。行事や活動に参加してどのように感じましたか。(〇は3つまで)

1.	地域のいろんな方とのつながりができた	26	35.1%
2.	同じ価値観を持つ仲間ができた	6	8.1%
3.	達成感・充実感を得ることができた	13	17.6%
4.	地域貢献ができた	11	14.9%
5.	知識やノウハウを身に着けることができた	2	2.7%
6.	地域への愛着が深まった	9	12.2%
7.	特にない	3	4.1%
8.	その他	4	5.4%
	合計	74	

問9 問7で「3.義務感や付き合いで仕方なく参加している」「4.あまり参加していない」「5.以前は参加していたが、現在は参加していない」「6.全く参加していない」と回答した方のみお答えください。

理由は何ですか(〇は3つまで)

1.	仕事や子育てで忙しくて時間がない	18	38.3%
2.	興味や関心がない	5	10.6%
3.	つきあいがわずらわしい	4	8.5%
4.	一緒に参加(活動)できる仲間がいない	4	8.5%
5.	近い将来、地域外に引っ越す予定がある	0	0.0%
6.	活動に負担を感じる	8	17.0%
7.	活動の内容が分からない	4	8.5%
8.	その他	4	8.5%
	合計	47	

問10 次にあげる地域コミュニティ活動に参加していますか。また、今後は参加したいと思いますか。

		参 加 し お た り 今 後 も 加	参 加 し る 活 動 に 今 後 加	参 加 し な い が 今 加	参 加 し な い し 今 加
1.	スポーツ等の健康増進に関すること	17	3	24	11
2.	料理・音楽・美術・手芸・踊り等の生涯学習に関すること	2	1	25	24
3.	自然環境保全・環境美化・景観保全等に関すること	6	1	26	17
4.	子ども会や子育て支援・青少年健全育成等に関すること	25	6	16	7
5.	高齢者や障がい者等福祉に関すること	0	2	28	22
6.	地域防犯・交通安全等の安全・安心に関すること	10	3	25	13
7.	自主防災や災害予防に関すること	8	3	29	12
8.	コミセン祭り等のイベント交流に関すること	31	4	13	8
9.	親睦会や旅行等の親睦に関すること	5	0	20	26

問11 コミュニティの運営や活動を進めるうえでの課題にはどのようなものがあると思われますか。

(〇は3つまで)

1.	担い手不足や役員の高齢化	37	25.3%
2.	活動のマンネリ化	13	8.9%
3.	住民の関心の低下	17	11.6%
4.	情報共有の不足	3	2.1%
5.	参加者の減少・固定化	30	20.5%
6.	他地域との連携不足	3	2.1%
7.	小中学校との連携不足	4	2.7%
8.	人口の減少・少子高齢化	37	25.3%
9.	わからない	2	1.4%
10.	その他	0	0.0%
	合計	146	

地域コミュニティアンケート集計結果

問12 あなたは地域コミュニティの活動にどのようなものを求めますか。(〇は3つまで)

1.	充実感を味わいたい	8	10.0%
2.	地域に貢献したい	18	22.5%
3.	自分の経験や知識を活かしたい	3	3.8%
4.	仲間や友人を作りたい	16	20.0%
5.	興味のある活動に参加したい	26	32.5%
6.	身近に解決したい問題があるから	1	1.3%
7.	地域の防災活動に協力したい	4	5.0%
8.	その他	4	5.0%
	合計	80	

問13 どのようなことがあれば、地域コミュニティ活動に参加したいと思いますか(自由記述)
(聞き取り調査含む)

数が多い。マンネリ
子育て支援、親子活動、障がい者福祉等、生活を助けていただきたい。

分煙・禁煙がなされること。終わりは酒でダラダラ。時間が読めない。終了時間を設ける。役割の分担。同じ人ばかりやっている。

地域のお年寄り子どもと一緒に楽しめるイベント又はコミュニケーションの場が、年1〜2回あるといいなと思います。

子どもと一緒に楽しめる活動(子どもと一緒に料理教室)
PTA、子ども会の見直し。そもそもPTAは無くてもいいのに無理をしている。
子どもとみんなで参加できる行事。現在でもあるので、これからも参加したいと思っています。

本当はもっと積極的に参加したいのですが、仕事が不規則で、あまり参加できません。親子で参加できるような活動があれば、ぜひやってみたいです。

小中学校と連携した活動
固定化の顔でなく、顔見知りの連帯感のあるお付き合いの活動であれば入りやすく、楽しく感じられると思う。

同じ世代の仲間がいれば参加しやすい。また、新参者等でも参加しやすいような雰囲気づくりが必要。※新たに入る人はただでさえ中に入りづらいと感じていると思う。

子どもが小学校を卒業するまでは、コミュニティセンターの事業によく参加させていただき、楽しませていただきました。特に、スポーツ団体を取りまとめていただいていたことで、コミセンがより身近に感じられました。また、放課後にコミセンを開放していただいていたこと(放課後クラブ)も大変ありがたく、子どもが毎日のように利用していました。なので、子育て世代にとっては、子どもと楽しく参加できる行事や、子どもの遊び場の提供等日々の子育てを助けてもらえる活動があると、参加者が増えると思います。

町内会が大きくなればなるほど、地域全体を把握することは難しい。町内会の役員をやりたい人もいない。自分のやりたいことがあれば地域に限らず、地域を飛び越えて個人で活動している人はいると思います。個人での活動が主流となってきている時代になっているので、行政サービスが行き届かない最低限の活動を地域活動に求めるしかないと思います。
残念ですが、地域の人に言われたのですが、「最後は行政がしてくれる。」とのことです。
地域コミュニティ活動については何かしらの目的がないと参加を求めるのは難しいと思います。たとえば、子ども会・老人会等
仕事し、個人の時間を持ち、地域活動に参加するには、個人の時間を地域活動に使ってもよいと思えるような価値を地域活動から受けられることが必要だと思っています。

参加する人が固定化されており各イベント・会議でも同じ顔ぶれなので、参加しない人を引っ張り出す工夫や年寄りでもリーダーとなってイベントの実施できるような工夫。
イベントや活動するにも金銭面が問題で、市の補助金でも申請の簡素化やイベント実施する為の講習会の企画

気軽に参加できる場(入口)がある。また、参加したくなるサークルや取り組みがある。○積極的な情報発信。(紙媒体の回覧のほか、メルマガやフェイスブック等)○地域貢献活動については、地域の現状と課題、必要性の周知。○コミセン施設の活用。例えば、移動図書館や食事会など。老若男女、個人、団体を問わず、気軽に利用できるようなものが良い。

地域の体育行事は小学生を対象とした行事もあるので、子どもも多く参加しているできる。(保護者もついてくる)。小学校や中学校と連携して、子ども達にも地域活動にもっと参加できる体制を作ってほしい。例えば、夏祭りで学生がイベントコーナーを受け持ったり、ステージで披露したり。コミュニティの活動に参加して、地域の大人と交流したり。子どもは子ども、大人は大人、シニアはシニアという括りで閉じこもらないように、コミュニティ活動を通じて枠を取っ払えたらいいと思う。

押しつけがましい行事ではなく、若者が積極的に参加できるところ。昔の上下関係に固執した考えが徐々になくなっていくこと。